（第二版）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）　昭和十八年六月二十四日（木曜日）　臺灣日日新報　第一万五千五百五十六號　A　（一）

夕刊

臺灣新民報

六月二十三日

米國内政上の危機
ルーズベルト進退兩難
炭坑爭議解決曙光なし

【ストックホルム二十二日發同盟】米國の炭坑爭議は愈〻重大化の兆を示し來り、ルーズベルトのインフレ阻止政策は全面的破綻に瀕するに至るべしと觀測されるに至つた、即ち炭坑爭議解決のため十二日夜ホワイトハウスに開かれた會議にルーズベルトは出席せず、ジョン・ルイスは内閣にイエスかノーかの最後的決斷を迫つたが、ルイスは五月の賃銀引上げ案を固執して譲らず、會議は決裂したと傳へられ、ルーズベルトは今や内閣と議會の兩面から攻撃されるに至つたと觀測されてゐる、ルーズベルトが最後的決斷を下すか、或いはすんなりとルイスの案に屈服するか、何れかの方法を採り得ないと傳へられる情勢にあるが、ルーズベルトの新聞記者會見の模様からすれば、ルーズベルトが最後的決斷を下すことは困難であるとの觀測が有力である、ルーズベルトの新税法が施行されてから、勞働者の賃銀引上げ要求が續出し、ルーズベルトの物價凍結政策は重大な危機に直面するに至つたと觀測されてゐる、ルーズベルトは内閣と議會の兩面から攻撃されるに至つたが

皇后陛下　東京府下落川女子青年團の田植作業台覽　寫眞—電送

御婦徳を御研磨

照宮様　呉竹寮より御假寓所へ

【東京發】照宮成子内親王殿下には、御入寮後一週間目の六月十日、御假寓所へ御うつり遊ばされましたが、この御うつりに際しては、御入寮の際と同樣、御自動車にて御出門遊ばされ、御途中、御學友の御住宅に御立寄りになり、御假寓所には午後二時御到着遊ばされました。

御假寓所は、呉竹寮と同じく、内親王殿下御修學のため、特に設けられたもので、御學友の方々と御一緒に、御寢食を共にあそばされ、御勉學に、御遊びに、御修養に、御日課を定めて、御生活遊ばされることになつてゐます

（第二版）（朝治北一九五五年九月九日第三種郵便物認可）　昭和十八年六月二十四日（木曜日）　臺灣日日新報　第一萬五千五百五十六號　（一）

臺灣新報

本日夕刊共六頁
在留日五人作家執筆
社報毎日四回発行

東條首相の演説に 泰國深甚の謝意

ピブン首相メツセージ

新しき協力を具現 東條首相重ねて披瀝

鐵鋼業の南方進出

日泰關係の進展期す

侍從武官を御差遣

日本の援助得れば 印度獨立必ず成功

日本政界の協力要望

全島米穀納入組合 愈よ農業會に統合

内務省休閑地を貸付

食糧自給體制確立に寄與

轉廢業對策に活躍

産報豫算四百萬圓

泰國第十回革命記念日

ピブン首相決意放送

肥料配給割當決定

情報局參與設置

初代東京都長官

大達昭南特別市長内定

獨空襲の英軍 卅五機を喪失

インド獨立へ協力

ボース氏を激勵

學資信託
三井信託

七月號 八十錢
百枚読切長篇小説
宇山出公兵
新吉年
現地座談會
舟艇部隊と ガ島作戰
海野十三 大佛次郎 風間八十麿 納言恭平 横溝正史 伊地知進 村上元三 富田常雄 戰爭文藝 作家部隊
東京日本橋 文藝春秋 電話京橋四〇三二

七月號 四十錢
戰線文庫
富士仰ぐ海兵團
若人よ航空隊へ來れ！
海戰畫報
山本元帥の遺訓
前線に在りし長官と母堂
若き日の元帥と母堂
伊勢詣で 鹿島孝二
セレター軍港 北町一郎
海 兵 佐々木邦
戰ふ海軍報道班員
亞興社 東京日本橋

讀物レヲド 七月號 四十五錢
基地の人達 濱本浩
さくら鮎 長谷川幸延
山本元帥の生家を訪ふ 神靈 松尾自鵬
青蛾と笹舟 中川義秀
座政談 野村胡堂
明六雜誌 棟田博
傳場帳 菊池寛
南の花挺身隊 今日出海 松井翠聲
文藝春秋社 東京日本橋

社説

無上の榮譽に應へ奉らん
若人よ、いざ軍旗旗の下へ

一

我が皇軍將兵の勇戰敢闘は、今や全世界の驚嘆の的となつてゐる。我が國民の一人として、この皇軍將兵の勇戰敢闘に對して感謝の念を抱かぬものはないであらう。しかし、この感謝の念を抱くといふことは、單に感謝の念を抱くといふことだけで終つてはならない。感謝の念を抱くといふことは、それと同時に、皇軍將兵の勇戰敢闘に對して、我々國民はいかに應へ奉るべきかといふことを考へ、それを實行に移すといふことでなければならない。

二

我が國民は、皇軍將兵の勇戰敢闘に對して、いかに應へ奉るべきかといふことを考へ、それを實行に移すといふことは、我が國民の一人一人が、それぞれの立場において、それぞれの職域において、それぞれの持場において、それぞれの任務を完遂することによつて、皇軍將兵の勇戰敢闘に應へ奉るといふことでなければならない。

三

今日我が國民は、皇軍將兵の勇戰敢闘に對して、いかに應へ奉るべきかといふことを考へ、それを實行に移すといふことは、我が國民の一人一人が、それぞれの立場において、それぞれの職域において、それぞれの持場において、それぞれの任務を完遂することによつて、皇軍將兵の勇戰敢闘に應へ奉るといふことでなければならない。

本島農業關係の案件
中央との折衝成る
松野農林大臣を語る

交易營團の發足へ
解決を要する問題
營團の意義

燦「淬礪の誠」に榮光
皇奉より表彰の人々

産業設備營團 進出
決戰臺灣の工業に拍車

ジャワで大麥栽培
試驗良好、本格的に播種

ジャワ 鋭意食糧增産
激刺たる南方圏の産業陣容

新規發行六億七千萬圓
第二、四半期起債計畫

重慶の崩壞近し
七月號 中央公論

電球と電力を大切に

戰ふ女性を御巡察
奈良縣下にお成り

一歩進んだ簡易裁斷の洋裁が……自宅で習へる

温泉修練道場の準備進む

今日の映画

ちよつとの傷も
ソオ

戰ふ女性を御巡察

伏見宮妃殿下

奈良縣下にお成り

【奈良發】伏見宮妃殿下には御令嬢智恵子女王殿下と共に二十四日午前十時奈良驛に御到着、縣知事、縣議會議長、縣翼賛會事務局長、縣婦人會長、縣女子青年團長、縣下各女學校長等の奉迎を受けられ、自動車にて奈良ホテルに御入館遊ばされた、なほ二十五日午前九時より奈良女子高等師範學校、奈良女子師範學校、奈良女子高等學校、奈良女子青年團、奈良女子勤勞報國隊、奈良女子學生生徒、奈良女子學生生徒、奈良女子學生生徒

我行かん軍艦旗の下
海へ〳〵、志願熱愈々高潮
小池中佐が熱辯
嘉義市青年歡喜の宣誓

【嘉義特電】嘉義市青年團主催の第四回「我行かん軍艦旗の下へ」講演會は二十三日午後一時から市公會堂において開催、聽衆一千餘名參集に先立ち一同の宮城遙拜があつた後、小池中佐は「我行かん軍艦旗の下へ」と題し「大東亞戰爭と青年の覺悟」「大東亞戰爭と海軍の發展」「我が海軍の精神」の順序で夫々熱辯を振つて、聽衆一同に多大の感激を與へた。次いで「海軍志願者と其の家族に對する感謝狀贈呈」があり、嘉義市長より感謝狀が贈呈された。

羅東郡で青年大會

【羅東特電】去る二日羅東郡下の青年團幹部約二百名參集の下に羅東國民學校に於て「青年團幹部錬成會」が開催されたが、同會は午前八時から午後五時迄、講堂に於て講義、實習、體操等を行ひ、午後五時から二時間に亘つて「大東亞戰爭と青年の覺悟」と題し、羅東郡青年團長より訓示があつた。

熱烈血書の宣言

【羅東特電】羅東郡青年團の錬成會は二日目の二十三日午前八時から五時迄、講堂に於て講義、實習、體操等を行ひ、午後二時頃から「大東亞戰爭と青年の覺悟」と題し、羅東郡青年團長より訓示があつた。

今明日虎尾で講演會

【虎尾特電】虎尾郡下青年團幹部錬成會は二十四日午前八時より虎尾公會堂に於て開催、二百五十名參加の下に左の講師を招聘して講演會を開催する。

豐原でも今日

【豐原特電】豐原郡下青年團幹部錬成會は二十四日午前八時より豐原公會堂に於て開催、二百五十名參加の下に左の講師を招聘して講演會を開催する。

高雄市で啓發宣傳打合

【高雄特電】高雄市青年團幹部錬成會は二十四日午後一時から市公會堂に於て開催、二百五十名參加の下に左の講師を招聘して講演會を開催する。

けふ東港で講演會

【東港特電】東港郡下青年團幹部錬成會は二十四日午後一時半から東港公會堂に於て開催、二百五十名參加の下に左の講師を招聘して講演會を開催する。

斗六街で二回

【斗六特電】斗六郡下青年團幹部錬成會は二十四日午後一時から斗六公會堂に於て開催、二百五十名參加の下に左の講師を招聘して講演會を開催する。

三回と講演會

【嘉義特電】嘉義市青年團幹部錬成會は二十四日午後一時から市公會堂に於て開催、二百五十名參加の下に左の講師を招聘して講演會を開催する。

偉勳薫る大東亞の礎
模範通譯故謝君

【新竹特電】新竹州下に於ける模範通譯として、將又州下に於ける最古參の通譯として、多くの人々に敬愛されてゐた謝君は、昨年十月以來病魔と闘つてゐたが、遂に二十二日午後十時三十分、新竹市東門町の自宅に於て、惜しくも逝去した。

海上に活躍故石君

【新竹特電】新竹の鐵〇〇組員として南方第一線に活躍中、昨年十月十五日、敵潜水艦の魚雷攻撃を受けた新竹州出身船員〇〇〇〇君（二十二）は、船と運命を共にして壯烈な戰死を遂げた。

勞務奉公團員故何君

【新竹特電】新竹州下に於ける勞務奉公團員として、昨年十月以來、新竹州下に於ける各種の重要工場に勤務してゐた何君は、病魔と闘つてゐたが、遂に二十二日午後十時三十分、新竹市東門町の自宅に於て、惜しくも逝去した。

勇名轟く義勇隊員
高雄州隊戰傷死者發表

【高雄特電】海軍省發表を見るまでもなく、アッツ島玉碎部隊の勇士として、高雄州出身の山田一也、原田百代、島中市吉川村出身の竹内力、村川達夫、川井清一、古田勇、國田一郎、田中由夫、石丸二郎、西田一郎、吉井正夫、石田一郎、高雄市出身の立花喜代一、栗山義雄、小川純、石田一郎、吉井正夫、栗山義雄、小川純